2021年、デフリンピッ 2017年デフリンピック・トルコ大会では、日本代表女 子チームが金メダルを獲得。次回のデフリンピックで も女子チームは連覇を、男子チームは初のメダル獲 得をめざします。

デフバレーボール日本代表チームを応援してください。

日本代表チームには、デフリンピックの知名度が低いことなどから、活動資金が集まりにくく、合宿参加や海外遠征などにも日本 代表選手に多額の自己負担を強いている状態です。実力があっても経済的な理由から、日本代表を辞退せざるを得ない選手もい ます。日本デフバレー協会では、日本代表選手の負担を軽減できるよう鋭意努力しておりますが、恒常的に活動資金が不足してお ります。皆様より、代表チームにご支援の程よろしくお願い申し上げます。

デフバレーボールは下記の企業様にスポンサードされています。





ଡ 伊藤超短波



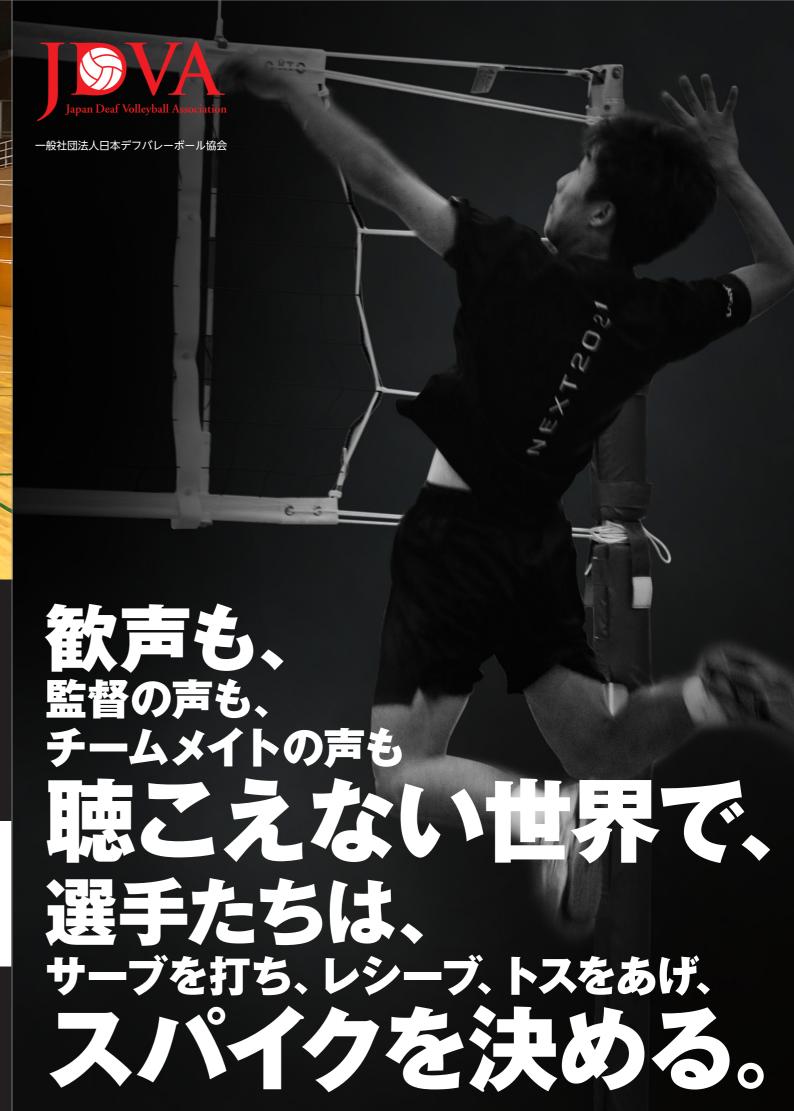




〒144-0034 東京都大田区西糀谷3-18-14 (事務局)

FAX: 03-3745-7686 Email: info@jdva.jp URL: http://idva.ip/

本サイトで使用している文章・画像などの無断での複製・転載を禁止します。 © 2019 Japan Deaf Volleyball Association ALL RIGHTS RESERVED.



デフバレーボールとは、 聴覚障がい者 (deaf) による バレーボール競技です。

デフバレー選手は、チームメイトの声、審判の笛の音、ボールの弾く音など、コート上でのすべての音が聞こえません。一般のバレーボールのように、声によるプレーの連携ができず、監督の指示も声では届きません。選手は声の代わりに、手話・読話・手話通訳などの手段を使ってコミュニケーションをとり、アイコンタクトによって高度なコンビバレーを見せます。競技ルールは、一般のバレーボールと全く同じ。6人制、コートや用具、競技形式なども一般のバレーボールと同じ。ネットの高さは男子2.43m、女子2.24mです。

日本デフバレーボール協会は、デフバレーボールを通じて、聴覚障がいへの理解を深め、共存社会の実現をめざします。

聴覚障がい者によるデフスポーツは、世の中にほとんど知られていません。デフスポーツ選手は他の障がいと比較し身体能力が高いこと、手話による運営側などとのコミュニケーションが難しいといった理由でパラリンピックには参加できず、独自のデフリンピックという大会があることも残念ながら知られていません。私たちは、聴覚障がい者アスリートたちの声にならない声を手話とバレーボールを通じて社会に訴え、デフバレーボールの普及とデフリンピックで日本代表の世界一をめざします。これにより、聴覚障がいへの理解を深め、共存社会を実現していくことが、私たちの活動理念です。



一般社団法人 日本デフパレーボール協会 理事長

大川 裕二

私たちは、日本代表チームの国際大会参加をサポートしています。

■デフリンピック (Deaflympics)

4年に一度、世界規模で行われる聴覚障がい者のためのデフスポーツ国際総合競技大会です。夏季大会と冬季大会があり、夏季大会は1942年にフランスで、冬季大会は1949年にオーストリアで始まりました。デフリンピック (Deaflympics)は、IOCの承認を得た名称です。2017年、トルコ・サムスンで開催された夏季大会では、100カ国、3,148人が参加しました。日本デフバレーボール協会は、強化選手によるデフバレーボール日本代表チームをつくり、強力にサポートしています。

■世界選手権 (World Deaf Volleyball Championships)

4年に一度、デフリンピックの前年に開催されるデフバレーボールの世界大会です。第1回は2008年に開催され、第3回は2016年に開催されました。日本デフバレーボール協会は、世界選手権への日本チーム参加もサポートしています。



2024**年**

第5回デフバレーボール世界選手権

2025**年**

デフリンピックを日本で

日本デフバレーボール協会は、4年に一度デフバレーボール世界チャンピオンを決める最高峰の大会、第5回デフバレーボール世界選手権の日本招致を精力的に進めています。

また、全日本ろうあ連盟は、デフリンピック2025の日本招致をめざしています。 日本デフバレーボール協会は、デフスポーツ競技団体として国際大会の日本 招致への活動に積極的に参加します。



2018年6月10日(日)に開催された全国ろう あ者大会(於大阪)において、「デフリンピック日本招致に関わる特別決議」が承認されました。